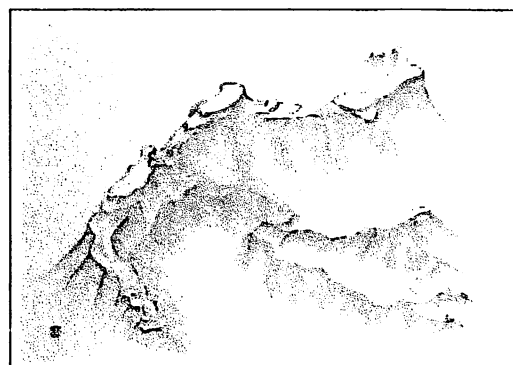


鴨山城跡概要説明



所在地 : 浅口市鴨方町鴨方
標高 : 167.7m
城郭形式 : 連郭式山城
築城期 : 室町初期
築城者 : 細川 満国
城主 : 細川 満国
遺構 : 大曲輪・腰曲輪・石垣曲尺
石積み・堀切・切岸・
小曲輪

沿革

鴨山城は別名、加茂山城・石井山城・清滝山城・城山ともいう。応永14年(1407)細川満国が浅口分郡知行主として入郡以降、細川野洲家の拠点の城として浅口郡を約190年間領知した。

城主は8代の元通まで続くが、一時期城主不在の時があったようである。永禄2年(1559)細川通董(みちただ)は毛利氏の配下であり、7代目鴨山城城主として、伊予国の川之江から浅口郡に入っている。青佐山城に7年、竜王山城へ9年間居城する。天正3年(1575)鴨山城に入った頃、城の大改造を行なっている。

その後、8代城主の元通は、慶長5年(1600)関ヶ原の戦いで敗軍側となり、長門国へ移り鴨山城は廃城となる。

概要

参考文献『鴨方町史』

標高167.7mに築城し、全長約400mの巨大な連郭式山城である。中央の堀切を境に南の曲輪と北の曲輪に分かれている。備中守護家の初代城主細川満国の入郡初期縄張りには、北曲輪の最高所曲輪あたりが中心だったようである。

7代城主の細川通董が浅口郡へ入り、天正3年(1575)鴨山城へ移った頃大改造をしたとの記録がある。その時、北曲輪のほとんどを削平して広げ、北の大曲輪の中心にも館があったものと推測する。

中心曲輪は、広さ30m×25m程あり、三方を腰曲輪で囲み堅固な構えとしている。その北の曲輪もおおよそ40m×25mあり、城郭内で最大の広さである。その先端部の下には堀切を設けて北からの攻めを防御している。また、南の曲輪の最高部は形からして、何らかの施設が有ったようである。

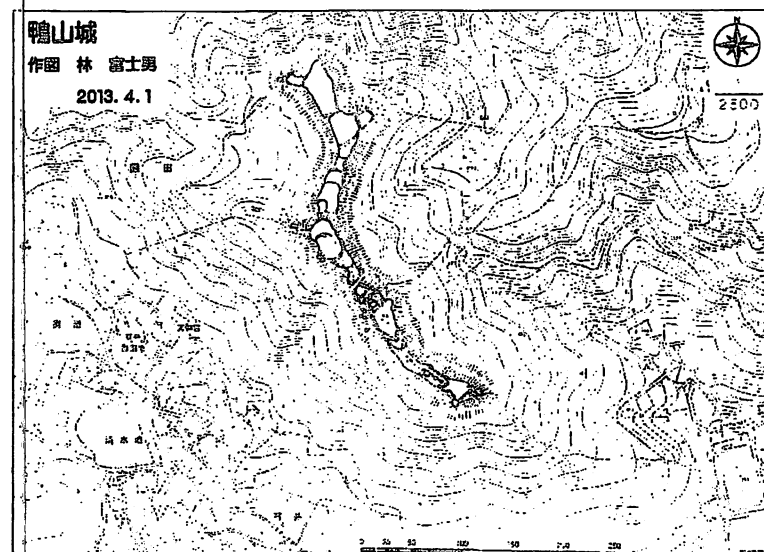
中世の城郭として、初期の陰から陽の構えに変化した遺構をみることができる。

見所 : 大曲輪・切岸・石垣曲尺・腰曲輪・堀切・石積み

<お願い> ここは岡山県の遺跡指定地です。土器の破片など散布物は持ち帰らないで下さい。

連絡先 : 浅口市教育委員会 文化振興課 0865-44-7055

縄張り図



登城ルート

1. 一般コース

町家公園から鴨神社経由で林道を利用し登城する。途中稲荷山へ登って行くのも良い。稲荷山も鴨山城との関連があると思われる。

2. 健脚コース

町家公園から、100m西から長川寺へ向かい、山門前を更に西へ30m程行き、北西方向に尾根筋を登城していく。

南の郭下に磨崖仏が彫られている。江戸期のものであろうと思える。

一般城郭用語

鴨山城跡に無い用語も含む。

- ① 曲輪・郭(くるわ) : 城の中の平坦地で主郭・帯曲輪・腰曲輪などがある。
- ② 土塁(どるい) : 土を盛り上げて造られた土手で、敵の侵入を防ぐ施設。
- ③ 堀切(ほりきり) : 尾根を切込み大きな溝をつくり、敵の侵入を防ぐ。薬研堀・箱堀・障子堀などがある。
- ④ 縦堀(たてぼり) : 斜面に沿って縦方向に掘り下げ、敵の横移動を防ぐ目的がある。
- ⑤ 虎口(こぐち) : 曲輪への入口。食い違い虎口・枡形虎口がある。
- ⑥ 切岸(きりぎし) : 曲輪の側面に人工的に急斜面を付け、登り難くする。近世では石垣で普請する。
- ⑦ 土橋(どばし) : 通路を堀切にし、中央部を細い橋状の通路をつくる。
- ⑧ 馬場(ばば) : 城内に馬を待機させておく曲輪。
- ⑨ 横矢掛(よこやがけ) : 城廓の曲輪と曲輪を広角状にし、側面から攻撃できる曲輪の配置。
- ⑩ 犬走(いぬばしり) : 曲輪の外側に設けた細長い張り出し部。
- ⑪ 横堀(よこぼり) : 斜面を横に掘り下げ、敵を迎え撃つ。味方の横移動に利便である。

